

IR 説明会における対話状況

※当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

■2023 年度決算説明会（第 82 期）

実施日 2023 年 6 月 12 日

株主概要 機関投資家

対応者 代表取締役社長、代表取締役副社長、取締役経営企画本部長、取締役管理本部長

主な内容

【利益率（売上総利益率）について】

- 現状の利益水準は低い印象だが、どの程度の利益水準が実力値だと考えているか？
⇒数年前までの状況と比較すると、昨年度は利益水準が低下した。今後は海外工事の不採算案件が消化されることや選別受注による利益向上により、土木は 10%、建築は 5%～6% くらいの利益水準には戻していきたい。
- 利益率について、土木・建築・鉄道の各事業の認識を説明して欲しい。
⇒土木においては、10%以上の利益率を確保したい。建築については、昨年度より引き続いて、厳しい状況にある。生産性を上げる等の工夫を進め、利益の回復に努めたい。鉄道については、当社の力が発揮できる部分では、鉄道以外の土木工事以上の利益率を目指したいが、その一方で工事が始まったばかりの羽田アクセス線のような大型案件では利益率の向上が難しいものもあると認識している。
- 国内の建築工事の利益率はどの程度と認識しているのか？今後、収益性を上げるための取り組みが顕在化してくると考えてよいのか？
⇒建築の利益率については、同業他社と比べても高い数字ではない。コロナの問題と資材・労務費高騰の問題があり、内定案件に対して価格協議が十分にできていなかったため、このような利益率になっている。現在、営業している案件は、コスト上昇分を加味して取組をすすめていきたいと考える。これに伴い、今期は厳しい状況が続くものの、少しずつではあるが、利益率も向上するものとする。

【JR 東日本との連携について】

- JR 東日本の持分法適用会社になり、明確に資本関係を持ったことで、収益性や案件の内容はどうかと考えているか？
⇒JR 東日本からの受注量が大きく増えると考えてはいないが、長期的な視野に立つと、人事交流や共同技術開発等が進み、弊社にとって有利な状況に働くと見込んでいる。

【海外工事について】

- 今期計画の中に海外工事の損失は見込んでいるのか？
⇒工事損失引当金を計上しているので現状、損失は見込んでいないが、ミャンマーの政変による工程の不安定化や、ベトナムの下水道工事における出水などのリスクは心配している。推移をみながら正確な判断をしていきたい。
- 海外工事でリスク要因が発現すると、損失が発生し、計画値が下振れするのか？
⇒現状の工事を進めるうえでの考えられるリスク、見えるリスクについては今期計画値に全て織り込み済みで、工事損失引当金を計上している。ミャンマーの件、ベトナムの出水は、工事を進めるうえでの心配事項と認識はしている。

【今年度の業績予想について】

- 営業利益率について国内の土木、建築とも大きく上がりにくいため、23年3月期と横ばいの計画になっているのか？
⇒建築は非常に苦戦していること、土木は北海道新幹線工事等への移行時期ということもあり、現時点では利益率を上げ辛い環境であると認識している。

【株主還元政策について】

- 足元での配当と自己株式取得の考え方を教えて欲しい。
⇒23年3月期の最終利益は大幅に低下したが、配当については安定配当という考えから、1株80円の配当を維持している。また、自己株式取得については、今後、PBR1倍割れに対応していく中で、配当施策、成長戦略を含めて検討していきたい。